

Marvão

について



写真: shutterstockTatiana Murr

マルヴァン

カステロ・デ・ヴィデ (Castelo de Vide) とポルタレグレ (Portalegre) の間、スペインとの国境からわずか数キロメートルのところに位置するマルヴァン (Marvão) は、セーラ・デ・サン・マメーデ (Serra de São Mamede) の頂上にあるのどかな町です。

かつてはアマイア (Amaia) と呼ばれていたこの丘の上の村の現在の名称は、9世紀にムーア人の戦士であるイブン・マルーアン (Ibn Marúan) が避難場所として使用したことに由来します。この地域のアラブ人による支配は数世紀間続き、1160年～1166年の領地奪還のための軍事攻勢により、ポルトガルの初代国王となるアフォンソ・エンリケス (Afonso Henriques) 率いるキリスト教徒の軍が再び勝利を収めたときに終了しました。

地形的には、マルヴァンは北、南、および西側が急斜面である、天然の戦略上の防衛基地です。陸路の場合は東側からしか近づけないため、町は徐々に東側に拡大していきました。

こうした事情は征服者も国王もともに気づかないわけではなく、常に城と城壁の両方を強化することに心を砕きました。この城は、ディニス王 (D. Dinis) とその弟のアフォンソとの戦い (1299年)、1383年～1385年の王朝の危機、スペインからの独立回復戦争 (1640年～1668年)、スペイン継承戦争 (1704年～1712年)、および半島戦争 (1807～1811) などの大規模な戦争において重要な役割を果たしました。マルヴァンは、重要性が認識されて1266年にサンショ2世 (D. Sancho II) によって町の地位に昇格しました。1299年には憲章が改められ、1512年にマヌエル王 (D. Manuel) によって新たな憲章が授与されました。マヌエル王はペロウリーニョ (柱塔) (Pillory) の建設と市庁舎につけられた王立軍の紋章に自分の足跡を残しています。

城壁内は狭い路地に沿って美しい民家が軒を連ね、アレンテージョ (Alentejo) 地方の典型的な景観を呈しています。その中にゴシック様式のアーチ、マヌエル様式の窓、練鉄製のバルコニーをはじめ、地元の花崗岩で造られた建物の隅々にその他の装飾を容易に見つけることができます。

マルヴァンへの訪問者が決して忘れることのない建築遺産には、城と城壁の他にも、現在は市立博物館に改装されているサンタ・マリア教会 (Igreja de Santa Maria)、サンティアゴ教会 (Igreja de Santiago)、レナセンサ・カーペラ・ド・エスピリト・サント (Renaissance Capela do Espírito Santo)、および城壁の外側にあるノッサ・セニョーラ・ダ・エストレラ修道院 (Convento de Nossa Senhora da Estrela) などがあります。

マルヴァンを訪れる理由の1つは、周辺地域の美しい景観が一望できることです。その景色を最もよくご覧いただくために、城の塔 (Torre de Menagem) の上やポザーダ・デ・サンタ・マリア (Pousada de Santa Maria) からの眺望をお勧めします。このポザーダは町の2つの住宅を改修して造られた豪華なホテルで、休息と美味しい地元料理を味わう場所を提供します。

11月に開催される栗のフェスティバルはこの町を訪れ、町の人々や地元の習慣をさらに知るよい機会です。